

実践報告

オンライン国際ワークショップ「Virtual Camp」事後調査報告 (2020 COVID-19影響下に、“今できること”を模索する若者たち)

小菅 洋史^A

Post Survey Results for “Virtual Camp” Online International Workshops (Youth Searching for What They Can Do Amidst the Current COVID-19 Crisis)

Hiroshi KOSUGA^A

Abstract: In the summer of 2020, many students had no choice but to give up their plans to study abroad due to the COVID-19 crisis. In response to this, online international workshops under the title of “Virtual Camp” (hereafter referred to as VC) were launched, gathering participants from around the world. These workshops were planned by organizations involved in many different types of international volunteer efforts. Through the post-survey, the author explored the educational benefits of VC, how it is valuable as a preparation for study abroad and how this experience allowed students to gain an interest in social and environmental issues, as well as consider what they can do at present in Japan.

Keywords: online program, international volunteer, study abroad, social issue
キーワード: オンラインプログラム、国際ボランティア、海外留学、社会問題

1 背景

1.1 終わりの見えない海外渡航規制

COVID-19の世界的な感染拡大の影響は、一部対象国の感染症危険情報レベルが引き下げられた¹⁾とは言え、2020年12月現在、渡航の是非、中止を呼び掛ける事態は継続している²⁾。

国際交流事業の重要な施策のひとつである、「海外留学」・「海外研修」も渡航を見送らざるを得ない中、海外教育交流事業で年に約3,000名の参加者を輩出していた一般社団法人CIEE国際教育交換協議会(以下、CIEEJ)でも、2020年夏季は海外派遣プログラム、「短期海外ボランティア」の開催を見送った。しかし、世界から集まるボランティアメンバーと現地でボランティア活動と共同生活を行うWork Camps(以下、WC)型プログラム、「国際

ボランティアプロジェクト」においては、この危機の中、欧州を中心とした主催団体により、インターネットを介したオンライン型ワークショップ、「Virtual Camp」(以下、VC)が代替案として企画された。日本においても、忸怩たる思いであろう若者たちへの機会提供のため、実施した。

本稿は、今後の国際交流プログラムの、ひとつの在り方になるであろう、オンラインプログラムとしてのVCの価値及びプログラムの成果を検証するため、事後調査を行った結果報告である。

1.2 オンラインプログラムと国際理解教育

今や国内外を問わず、一般的となったオンラインプログラムだが、教育面における歴史を振り返ると、大学等における遠隔教育は、かつて郵便や電話などの通信手段を用いたものであった。1970年代に入ると、システムの進歩により、一方的な情報提

A: (一社) CIEE国際教育交換協議会 国際教育推進部

供から、双方向に機能し始めた。そして、1990年代にインターネット技術が発展すると、より迅速な対応が可能となった³⁾。国際理解教育の現場においては、地理的な制約を克服できる利便性から、まずは外国語習得のツールとして、e-tandemと呼ばれる、未知の間柄から関係性を創出するインターネットを介した個人間の限定的なつながりが、限定的とはいえ、開始された。2006年にはskype、google hangout等を用いた相互の意見交換の機会を創出するteletandemへ、さらに、専門家や教員のサポートを受けながら、クラス単位の活動として異文化理解を図る、the telecollaboration modelへと、その活用方法は発展した。しかし一方で、世界的な、英語話者への交流先ニーズの偏りや、世界共通言語としてのリングフランカの意識の高まり、non-native Englishへの理解の拡がり、といった課題や活動内容の質の変化も注目されてきている⁴⁾。

現在、日本においては、国際的な双方向コミュニケーションの取り組みとしてCOIL(Collaborative Online International Learning)が、2018(平成30)年に世界展開力強化事業として採択され、国際理解教育面で活用が広まっている⁵⁾が、ボランティア活動など、一般的な参加者を想定する場合には、参加者のICT技術の習熟度、利用環境の充実、利用者の多様性といった課題も提示されている⁶⁾。

1.3 Workcamps(WC)とVirtual camp(VC)

「短期海外ボランティア」のうち、最も参加者が多いプログラムが、世界約30か国にて開催されるWCを活用した「国際ボランティアプロジェクト」(International Volunteer Project)である。WCは、世界中から10~15名が活動場所に集まり、ボランティア活動と共同生活を行う、海外ボランティアプログラムのひとつである。多くのプロジェクトが2~3週間の短期であるが、1か月から半年の期間で開催されるものもある。活動内容は、遺跡・建築物の修復作業や、農作業、文化活動から社会福祉、教育や学びに関わる活動など、各国の現地団体が地元のニーズを集約の上、プロジェクトとして造成され、ひと夏だけでも800種類以上の多種多様な活動が開催されている。日本からの参加者も、各国から集う参加者と活動及び共同生活を行い、時に意見の

対立が生じたりする中を、試行錯誤しながら、相互理解へつながる活動へ身を投じることができるのが醍醐味である。活動中の共通言語は、いずれの国の参加者であっても、英語、と定められているが、英語力は参加条件に掲げておらず、相手の話を聞き、そして、自分の意見を伝える姿勢が必要であるため、異文化理解の実践の場として、その教育的効果へ期待されるところが大きい。また、現地集合解散であるため、世界を舞台に「旅」をすること自体が、大きな成長の要素の一つである⁷⁾。WCは、第一次世界大戦後の1920年、相互理解の重要性を痛感したフランス、ドイツの若者により始まり、2020年に100周年を迎えている。

しかし、COVID-19パンデミックにより、海外渡航どころか、人々が集うことすら避けなければならない事態に、世界は追い込まれた。この中で、欧州のWC現地団体を中心に考え出されたのが、共通の目的をもった世界中の参加者をオンラインでつなぎ、協力して、ひとつのテーマに取り組む「VC」である⁸⁾。

2020年春、予定していたプロジェクトが軒並み中止となる事態に、チャンネルベースのメッセージプラットフォームSNS、Slack⁹⁾上に、WC主催団体のVCコーディネーター担当者が集い、オンラインでの会議や意見交換を重ねた。テーマや日程、対応可能な人数の規模などは異なるものの、多種多様なプロジェクトを造成し、コンテンツシェアソフトウェア、padlet¹⁰⁾上にて募集を開始させた。この動きに日本人向け施策として参加した。2020年夏、CIEEJが日本人向けに開示したVCプログラムの開催国、プログラム名、開始日、終了日、参加決定者数は、表1の通りであった。

オンラインで行う技術的な面も含め、参加に求められた準備や条件は、表2のとおりであった。

活動内容の具体例として、「デザインパターンの選び方、絵画ワークショップ」、「多種多様な文化を反映した子供向けの本の作成」、「手作り品で、浪費を抑制し、環境保全に役立つ活動を考える」など、現地団体が発案した、様々なテーマに基づいたプロジェクトが開催された。参加者は、指定された時刻に、規定のツールにてオンライン上で集い、主催団体が育成するリーダーの指示の下、活動に従事し

表1 2020夏VCプログラム一覧

国名	プログラム名	開始日	終了日	決定者数
ロシア	VC-20-78 Be responsible internet user	2020/7/1	2020/7/15	1
イタリア	VC-20-81 Togeth-Earth	2020/7/8	2020/7/10	3
フランス	VC-20-82 Contemporary French Literature	2020/7/15	2020/8/5	9
フランス	VC-20-85 International Book Club	2020/7/16	2020/7/16	3
スロバキア	VC-20-80 Easy Drawing!	2020/7/20	2020/7/27	2
ベトナム	VC-20-88 Storytelling for Kids 4	2020/7/26	2020/8/31	2
フィリピン	VC-20-86 Discovering Philippines through volunteering!	2020/7/28	2020/8/8	10
香港	VC-20-75 Glocal Hero Action—International	2020/8/1	2020/8/31	70
ロシア	VC-20-79 EcoHabits	2020/8/3	2020/8/7	5
トルコ	VC-20-87 Creative Writing 101	2020/8/3	2020/8/17	5
ドイツ	VC-20-84 “Let’s make sound in the silence”—Ravensbrück Memorial goes Digital	2020/8/10	2020/8/21	5
イタリア	VC-20-92 He for She	2020/9/7	2020/9/11	2
ドイツ	VC-20-91 Create an intercultural children’s book	2020/9/14	2020/9/30	2
ドイツ	VC-20-90 „I_remember—digital lab of remembrance“	2020/9/21	2020/9/25	11
スロバキア	VC-20-94 Comic strips and movie analyses	2020/9/28	2020/10/5	2

表2 VC参加条件

必需品	Wifi対応デバイス、カメラ・スピーカー、イヤフォンorヘッドセット
ツール	ZOOM、Slack、Whatsapp など
開催時間	1日3時間／3日間～1日1時間／1か月、など
英語力	不問だが、CEFR B1-B2レベル要もあり
参加費用	無料
対象者	年齢不問

た。

いずれも、主催団体现地時刻に合わせての開催となるため、日本からでは、現地午後実施の場合、深夜になることもあった。参加者同士のコミュニケーションは、ICT機器を用いて、スクリーン上で表情を確認でき、スピーカーまたはヘッドフォン等を通しての意思疎通となった。共通言語はWC同様に英語であった。なお、実際の渡航の負担がないとはいえ、機器の準備やトラブル発生時の解決方法などは、自力で行う必要があった。

人と人との接触を避けるため、大学での授業もオンラインで行われることが主流となる中、オンラインでの「海外プログラム」は、現実的に可能な、できる限りの施策であった。とはいえ、果たして、「渡航を伴わない海外プログラム」が、「渡航する海

外プログラム」に期待される効果と相応する成果のうち、何ができて、何ができないのか、その後の影響を見定め、認識する必要がある。また、ひとえに参加志望者といえども、そこには留学準備が整っていないながらも渡航できなかった時世下で、留学が決定していながら断念せざるを得なかった方、途中帰国を余儀なくされた方、これから留学を目指して準備中であつた方など、事情は様々であつた。そのため本調査では、不参加者を含む申込者全体を対象とし、VCプログラムそのものの価値の検証と、VCに参加することの成果を検証した。

2 調査

2.1 調査

2.1.1 目的

オンライン施策であるVCについて、プログラム自体の価値の検証と、参加者を対象にVCに参加することの成果を、海外留学に期待される成果と比較、検証すること、の2点を目的とした。

2.1.2 調査対象者

申込者の中には、全期間参加者、一部期間のみの参加者、不参加者が存在したが、いずれも参加を決

心し、申込を実行していることは共通している。そのため、本調査の目的である参加動機とその後の行動の関連性を探る対象者として、申込者全てである181名を調査対象とした。

2.1.3 調査手続き

調査紙は、先に実施された現地実施団体による英語でのアンケートの回収がわずか8件のみであったことを受け、改めて筆者とプログラム担当者の見識を合わせて構成の上、日本語にて作成した。対象者には留学中であったが、途中帰国を余儀なくされた留学断念者やこれから参加しようと準備していた予定者も含まれることが想定されたが、VCのプログラムとしての価値を測るため、参加不参加を問わず「総合評価」を設定し、回答を求めた。参加で得られる成果については、「海外留学」に期待される効果¹⁰⁾を参考に、年齢や性別の「1. 基本情報・VCの参加状況」の他、「2. プログラム評価」、「3. VC評価後の自己評価・達成度」、「4. 事前情報」、「5. その他」を項目とした。各項目の詳細は付録に記載した。

調査フォームはGoogle formsを利用して作成し、対象者へ配信した。不参加者は、参加による成果項目を除外し、「1: 基本情報」「2: プログラム評価」、「4: 事前情報」、「5. その他」を対象項目とした。回答データについては、個人が特定できる情報の公開は一切しないこと、体験を評価するものではないこと、そして学術論文等として活用することについて通知した。調査期間は2020年10月2日(金)より同10月16日(金)12:00締切にて実施し、分析はMS ExcelやR等のツールを用い、実施した。

2.2 結果と考察

2.2.1 回答者

配信総数181件(参加者と不参加者双方が含まれる申込者)のうち、回収総数は106件(Web回答106件-重複回答9件+メール回答9件)であった。回収率58.5%、調査対象有効回答数92件(受付総数106件-重複9件+対象外プログラム5件)であった。有効回答数92名の内訳は、参加者63名(68.5%)、不参加者29名(31.5%)であり、参加者の

うち、全期間参加者が34名(37.0%)、途中離脱をした一部期間参加者が29名(31.5%)であった。なお、回答者全体を「ALL」、参加者のうち、全期間参加者を「全期間」、一部期間のみ参加者を「一部期間」として記載する。

ALLにおいて、回答者の年齢層は、18歳が6名(6.5%)、19歳が27名(29.3%)、20歳が26名(28.3%)で、大学1年次及び2年次相当が計59名(64.1%)であった。その他は17歳が1名(1.1%)、21歳13名(14.1%)、22歳10名(10.9%)、23歳6名(6.5%)、26歳2名(2.2%)、29歳1名(1.1%)であった。大学1年~2年次層が多いことは、通常の海外派遣プログラム参加者層と一致している。性別は、男性が17名(18.5%)、女性が73名(79.3%)、回答せず、が2名(2.2%)であった。女性の比率は、参加者で47名(74.6%)、不参加者で26名(89.7%)であった。これは、CIEE海外ボランティアでは女性の参加者比率がおおよそ6~7割であることを鑑みると、より高い比率であった。

2.2.2 一部参加者、不参加者について

一部参加における途中離脱理由としては、「他の用事(就活、インターンシップなど)のため」、「設定時間が合わなかった」、「大学の授業のため」、「言語面での壁」、「機材不具合」、「指定備品が入手できず断念」、「メンバーが見つからなかった」などが挙げられた。

不参加理由としては、「参加決定(accept)とならず、参加できなかった」、「参加決定(accept)となったが、参加しなかった」、「申込途中で断念」、「その他(現地中止、手配結果の回答来ず)」などが挙げられた。申込手続フローが難航した事例の原因として、日本からの参加者は、現地団体へWEB上にて英語で直接行う必要があったことが考えられる。また、参加未決定者がいる一方、参加決定ながらも不参加であった者もいることを鑑みると、相殺して調整ができた可能性も否めない。申込手続中での断念や、手配結果が不明という、手続・手配上の不備も確認できる。今期は突如訪れた危機に際し、新たに拵えた試みであった事情もあるが、手配進捗情報が団体間で共有される仕組みが整えられていなかった不備が確認できる。運営団体として正確に把握し、

調整を行える環境に改善する必要がある。

なお、参加決定後に断念した理由としては、「他の用事（就職活動、アルバイト）のため」、「設定時間が合わなかった」、「知識不足で断念」、「急病」、「帰国」、「手続を忘れた」などが挙げられた。

2.2.3 事前情報について

申込者の海外経験の有無、参加動機、英語力の3点について、以下のとおり、検証を行った。

過去の海外経験について、参加者と不参加者間では、海外旅行経験、海外研修経験、経験なしの割合は大きく変わらなかった。海外経験の有無や、海外留学か海外研修かという参加プログラムの内容が、参加不参加の要因として、大きく影響を与えたものではなかったと考えられる。しかし、WC参加者には海外研修経験者が、ホームステイプログラムと比較すると有意差をもって多いこと⁷⁾と、VCがWCから派生したプログラムということ鑑みると、VCでは海外旅行経験者の方が多かったことは、COVID-19の影響も踏まえつつであるが、プログラムの特性を考える上では、重要な特徴である考えられる。

VCへの申込・参加を決定づけた参加動機について、参加者（63名）において50.0%以上を占めたものは、「参加費用が無料だったから」（35名（55.6%））、「海外に行きたいのに、渡航ができない事態であったから」（32名（50.8%））、「英語力を向上させたいと思ったから」（32名（50.8%））の3項目であった。「海外に行きたい」、「渡航できない」、「英語力」といった、COVID-19影響下にあった2020夏に想定されるワードが並ぶと同時に、「無料」であったことの影響が少なからず確認された。しかし、いずれも50～55%の域を出ず、残り半数は別の参加動機であったことも伺える。

英語力について、回答に挙げられた種々の英語試験スコアを、文部科学省によるCEFR（外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠（Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment））対照表を利用し、A1=1, A2=2, B1=3, B2=4, C1=5, C2=6として、数値に変換した¹¹⁾。その際、英検の級においてはレンジが広いので、下限を適用した。

これらを検証したところ、参加者の英語力層は、参加者においてはB2及びB1層がそれぞれ27.0%で計54.0%、不参加者においてはB2層が37.9%、B1層が27.6%で計65.5%であった。また、スコアなしはALL27.2%、参加者30.2%、不参加者20.7%であった。昨今の大学入試改革において、大学入学時に求める英語力の目安としてB1が設定されていることを鑑みると、大学生としてはやや高めの層と推察される。なお、全期間と一部期間におけるB2-B1層は前者が61.8%、後者が44.8%、さらにスコアなし層では20.6%、41.4%と、参加状況と英語スキルとの間に、統計的に有意な差異は検出されなかったものの、関係性が垣間見える。

2.2.4 VCのプログラムとしての価値について

渡航ができない代替策として、ニーズが高まったオンライン施策であるが、実際の海外体験とオンラインプログラムは、やはり異なるものである。しかし、事前準備としての効果や、オンライン施策ならではの価値を検証するため、VCプログラムに対する評価・満足度を、参加者だけでなく不参加者も含めた申込者全体を対象に回答を求めた。設問は、「総合的な評価・満足度（総合評価）」、「参加料金」、「現地団体の対応」、「日本の団体の対応」、「実施内容」の5項目における評価・満足度と、「VCを家族や友人に紹介したいか（推奨度）」の1項目を加えた、計6項目について、1：不満～5：満足の5段階の回答を設定した。参加者は6問全て、不参加者は「総合評価」、「参加料金」、「推奨度」の3問のみを対象とした。各設問に対し、ALL、参加者（全参加、一部参加）、不参加者の参加状況ごとの回答数と回答の割合、平均値、偏差値、中央値、最頻値について、表3の通り、算出した。

総合的な評価・満足度について、ALLでは、5が25名（27.2%）であるが、4が26名（28.3%）、3が35名（38.0%）と、1、2といった否定的な態度ではないものの、不満を含む回答が計61名（66.3%）を占め、十分な満足には至っていないことがわかる。不参加者においては、3以下の割合が大きく、準備の負担や、期待とのギャップが想定される。

無料であった参加料金については、全期間の97.1%を最高値として、全ての参加者帯にて、約

表3 VCプログラムへの評価・満足度

		1	2	3	4	5	計	平均	偏差	中央値	最頻値
2-1: VCプログラムに対する総合的な評価/満足度はどれくらいですか	ALL	2	4	35	26	25	92	3.7	1.0	4.0	3.0
		2.2%	4.3%	38.0%	28.3%	27.2%	100.0%				
	参加	0	1	18	21	23	63	4.0	0.9	4.0	5.0
		0.0%	1.6%	28.6%	33.3%	36.5%	100.0%				
	全期間	0	0	9	10	15	34	4.2	0.8	4.0	5.0
		0.0%	0.0%	26.5%	29.4%	44.1%	100.0%				
一部期間	0	1	9	11	8	29	3.9	0.9	4.0	4.0	
	0.0%	3.4%	31.0%	37.9%	27.6%	100.0%					
不参加	2	3	17	5	2	29	3.1	0.9	3.0	3.0	
	6.9%	10.3%	58.6%	17.2%	6.9%	100.0%					
2-2: 参加料金について (今回は無料)	ALL	0	0	8	2	82	92	4.8	0.6	5.0	5.0
		0.0%	0.0%	8.7%	2.2%	89.1%	100.0%				
	参加	0	0	3	1	59	63	4.9	0.4	5.0	5.0
		0.0%	0.0%	4.8%	1.6%	93.7%	100.0%				
	全期間	0	0	1	0	33	34	4.9	0.3	5.0	5.0
		0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	97.1%	100.0%				
一部期間	0	0	2	1	26	29	4.8	0.5	5.0	5.0	
	0.0%	0.0%	6.9%	3.4%	89.7%	100.0%					
不参加	0	0	5	1	23	29	4.6	0.8	5.0	5.0	
	0.0%	0.0%	17.2%	3.4%	79.3%	100.0%					
2-3: 現地実施団体について (参加者のみ)	参加	0	1	13	19	30	63	4.2	0.8	4.0	5.0
		0.0%	1.6%	20.6%	30.2%	47.6%	100.0%				
	全期間	0	0	5	11	18	34	4.4	0.7	5.0	5.0
		0.0%	0.0%	14.7%	32.4%	52.9%	100.0%				
一部期間	0	1	8	8	12	29	4.1	0.9	4.0	5.0	
	0.0%	3.4%	27.6%	27.6%	41.4%	100.0%					
2-4: 日本の実施団体(CIEE Japan)について (参加者のみ)	参加	0	2	13	14	34	63	4.3	0.9	5.0	5.0
		0.0%	3.2%	20.6%	22.2%	54.0%	100.0%				
	全期間	0	2	7	8	17	34	4.2	1.0	4.5	5.0
		0.0%	5.9%	20.6%	23.5%	50.0%	100.0%				
一部期間	0	0	6	6	17	29	4.4	0.8	5.0	5.0	
	0.0%	0.0%	20.7%	20.7%	58.6%	100.0%					
2-5: 実施内容について (参加者のみ)**	参加	1	7	11	22	22	63	3.9	1.1	4.0	4.0
		1.6%	11.1%	17.5%	34.9%	34.9%	100.0%				
	全期間	1	1	6	9	17	34	4.2	1.0	4.5	5.0
		2.9%	2.9%	17.6%	26.5%	50.0%	100.0%				
一部期間	0	6	5	13	5	29	3.6	1.0	4.0	4.0	
	0.0%	20.7%	17.2%	44.8%	17.2%	100.0%					
2-6: このプログラムを家族や友人に紹介したいと思いますか?	ALL	3	4	25	24	36	92	3.9	1.1	4.0	4.0
		3.3%	4.3%	27.2%	26.1%	39.1%	100.0%				
	参加	2	1	15	17	28	63	4.1	1.0	4.0	5.0
		3.2%	1.6%	23.8%	27.0%	44.4%	100.0%				
	全期間	1	0	8	7	18	34	4.2	1.0	5.0	5.0
		2.9%	0.0%	23.5%	20.6%	52.9%	100.0%				
一部期間	1	1	7	10	10	29	3.9	1.0	4.0	5.0	
	3.4%	3.4%	24.1%	34.5%	34.5%	100.0%					
不参加	1	3	10	7	8	29	3.6	1.1	4.0	3.0	
	3.4%	10.3%	34.5%	24.1%	27.6%	100.0%					

※40%以上：濃グレー、30%以上：グレー、20%以上：薄グレー

※評価5における全期間と一部期間比較 ** $\alpha < .01$, * $\alpha < .05$, † $.05 < \alpha < .10$ カイ二乗検定、両側検定。

80%以上の高い評価を得ている傾向だが、不参加者においては、5が79.3%であり、参加者の93.7%と比較すると、14.4ポイント低かった。逆に、3が参加者4.8%に対し、不参加者17.2%と、3倍以上の差があった。「不参加なので回答できなかった」という可能性は否めないが、少なくとも「無料であることがよい」という単純な構図ではないことが伺える。なお、1及び2との回答は、全参加者帯において0名であり、否定的というわけではなかった。

参加者からのみ回答を得た、現地及び日本の団体の対応については、全ての参加状況群において、3以上が90%以上を占め。大きな差異はなかった。

同じく参加者のみから回答を得た、実施内容に対する評価については、ALLにおける5の22名(34.9%)のうち、全期間が17名(50.0%)、一部期間が5名(17.2%)と差異があり、 $\alpha < .01$ と統計的な有意差も確認できた。一部期間においては、2以下が20%を超えることから、内容と希望とのミスマッチも、途中離脱の原因であったことが推察される。

VCの推奨度については、全期間で5が18名(52.9%)であったものの、一部参加の評価4や不参加者の評価3が、それぞれ10名(34.5%)であり、参加状況に呼応した低さが顕著であった。

特に、低評価者について検証したところ、留学レベルにある者にとっては、VCに期待したものと現実とに、相違があった可能性がある。特に内容への

評価に顕著であったこの不満が、さらに団体への不満へ転換されていることが推測される。一方で、留学レベルにない場合は、英語力や事前知識といったスキルの不足に起因する、期待との不一致も、生じていることも推察される。

また、VC参加がその後の取り組みに及ぼす影響を検証するため、全期間、一部期間を含む、VCを経た参加者と、一度は参加を志しながらも断念した不参加者における、今後の活動について、「海外留学」、「海外研修」、「海外ボランティア」、「日本国内ボランティア」、「海外インターンシップ」、「日本国内インターンシップ」、「専攻科目に関する学業」、「専攻科目に限らない学業」、「英語学習」、「アルバイト」、「VCに参加したい」、「なし」の12項目を設定し、複数選択可能として、表4の通り、回答を得た。

「海外留学」は、統計的な有意差は確認されなかったが、参加者37名(58.7%)に対し、不参加が21名(72.4%)と、割合が高く、差異が大きかった。一方、「海外ボランティア」「英語学習」については、参加不参加に関わらず、40~55%程度であり、大きな差異は見られなかった。

しかし、「英語学習」については、参加者27名(42.9%)、不参加者13名(44.8%)であった。事前の参加動機は、「英語力を向上させたい」と挙げた参加者32名(50.8%)、不参加者13名(44.8%)であり、VC参加によって、参加者における英語学習の志望

表4 今後の活動

項目	ALL		参加						不参加	
	n=92		n=63		全期間 n=34		一部期間 n=29		n=29	
1: 海外留学	58	63.0%	37	58.7%	19	55.9%	18	62.1%	21	72.4%
2: 海外研修	14	15.2%	9	14.3%	6	17.6%	3	10.3%	5	17.2%
3: 海外ボランティア	48	52.2%	35	55.6%	21	61.8%	14	48.3%	13	44.8%
4: 日本国内ボランティア	24	26.1%	16	25.4%	6	17.6%	10	34.5%	8	27.6%
5: 海外インターンシップ	29	31.5%	21	33.3%	10	29.4%	11	37.9%	8	27.6%
6: 日本国内インターンシップ	20	21.7%	18	28.6%	9	26.5%	9	31.0%	2	6.9%
7: 専攻科目に関する学業	15	16.3%	11	17.5%	4	11.8%	7	24.1%	4	13.8%
8: 専攻科目に限らない学業	21	22.8%	16	25.4%	12	35.3%	4	13.8%	5	17.2%
9: 英語学習	40	43.5%	27	42.9%	15	44.1%	12	41.4%	13	44.8%
10: アルバイト	16	17.4%	13	20.6%	7	20.6%	6	20.7%	3	10.3%
11: VCに参加したい	19	20.7%	16	25.4%	12	35.3%	4	13.8%	4	13.8%
12: なし	6	6.5%	4	6.3%	2	5.9%	2	6.9%	2	6.9%

※40%以上：濃グレー、30%以上：グレー、20%以上：薄グレー

者は5名(7.9%)減少していることがわかる。不参加者における割合に変化はないので、VC参加により、英語学習へのモチベーションが変わったのか、習得に対する態度が変わったのか、今後の検証が必要である。

なお、今後の活動のうち、統計的有意差と傾向が確認されたのは、表5の通りであった。

参加者・不参加者においては「6: 日本国内インターンシップ」の1項目において、 $\alpha < .05$ で有意

表5 参加の程度による今後の活動の差異

項目	参加者	不参加者
6: 日本国内インターンシップ*	18(28.6%)	2(6.9%)
項目	全期間	一部期間
8: 専攻科目に限らない学業†	12(35.3%)	4(13.8%)
11: VCに参加したい†	12(35.3%)	4(13.8%)

*** $\alpha < .01$, * $\alpha < .05$, † $.05 < \alpha < .10$ フィッシャー正確確率検定、両側検定。

差が、全期間・一部期間においては「8: 専攻に限らない学業」、「11: VCに参加したい」の2項目にて、 $.05 < \alpha < .10$ で差異の傾向が確認できた。

つまり、不参加であるよりも参加者が、また参加者においても、一部期間のみの参加であるよりも、全期間の参加であることにこそ、日本国内でのインターンシップや専攻科目に限らない学業といった、これまでと異なるフィールドへの関心が高まっていることが推察できる。これは、VCというプログラムの参加によって得られた成果であり、プログラムが提供する価値のひとつと考えられる。

2.2.5 VCに参加することの成果

参加で得られる成果について、「海外留学」に期待される効果を参考に、「主体性」、「協調性」、「異文化理解」、「知識・教養」に関わる18項目と、なしの1項目の計19項目を策定し、全期間、一部期間を含む参加者全てに対し、参加して特に向上した

表6 参加して向上したと思うこと

質問項目	参加者 n=63		全期間 n=34		一部期間 n=29		
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
1. 自分からやるべき課題を見つけて率先して取り組むこと**	20	31.7%	15	44.1%	5	17.2%	主体性
2. 自ら目標を設定し、失敗を恐れず粘り強く行動すること	15	23.8%	11	32.4%	4	13.8%	
3. 自分なりに現状分析して課題点を具体的に提示すること**	13	20.6%	11	32.4%	2	6.9%	
4. 課題に向けた解決プロセスを考え、計画的に実行すること	6	9.5%	5	14.7%	1	3.4%	
5. 相手の話しやすい環境を作り、適切な意見を引き出すこと	13	20.6%	9	26.5%	4	13.8%	協調性
6. 自分の意見ややり方に固執せず、相手の意見や立場を尊重して柔軟に対応すること**	17	27.0%	13	38.2%	4	13.8%	
7. メンバー間において、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解すること	24	38.1%	16	47.1%	8	27.6%	
8. その場のルールや手続きに従って、自ら行動や発言を適切にすること	9	14.3%	5	14.7%	4	13.8%	異文化理解
9. 自分の文化背景の異なる場所また仲間とでも、リーダーシップを取ること	6	9.5%	4	11.8%	2	6.9%	
10. リスクがあっても、挑戦してみることが大切だと考え、実行すること	10	15.9%	7	20.6%	3	10.3%	
11. 不十分な外国語力であっても、何とか意味を伝えようと積極的に発信すること	26	41.3%	15	44.1%	11	37.9%	知識・教養
12. 自分とは異なる信仰や文化的背景を持っている人を理解し、受入れること	14	22.2%	10	29.4%	4	13.8%	
13. 国内・海外を含めて、外国人との交流を図ること	28	44.4%	16	47.1%	12	41.4%	
14. 語学の勉強へのモチベーションを高めること	17	27.0%	7	20.6%	10	34.5%	—
15. 英語の勉強へのモチベーションを高めること	25	39.7%	13	38.2%	12	41.4%	
16. プロジェクト先の社会・習慣・文化に関する知識を高めること	15	23.8%	10	29.4%	5	17.2%	
17. 政治・社会問題・国際関係について、知識・関心を高めること	17	27.0%	8	23.5%	9	31.0%	
18. 社会での男女共同参画（男女平等）の重要性を認識すること	8	12.7%	5	14.7%	3	10.3%	
19. なし**	4	6.3%	0	0.0%	4	13.8%	

※40%以上：濃グレー、30%以上：グレー、20%以上：薄グレー

※全期間と一部期間比較** $\alpha < .01$, * $\alpha < .05$, † $.05 < \alpha < .10$ フィッシャー正確確率検定、両側検定。

と思うことを、複数選択可として、回答を求めた。回答数と割合を、表6の通り、算出した。

このうち、参加者の約40%以上が向上した、と回答した項目は、「13. 国内・海外を含めて、外国人との交流を図ること」28名(44.4%)、「11. 不十分な外国語力であっても、何とか意味を伝えようと積極的に発信すること」26名(41.3%)、「15. 英語の勉強へのモチベーションを高めること」25名(39.7%)、「7. メンバー間において、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解すること」24名(38.1%)の4項目であり、「交流を図ること」、「不十分な外国語力でも伝えること」、「関係性の理解」など、「協調性」や「異文化理解」に関わる項目と、「英語へのモチベーションを高めること」といった、国際交流プログラムの現場に期待される項目が挙げられた。さらに25%まで範囲を広げると、「1. 自分からやるべき課題を見つけて率先して取り組むこと」20名(31.7%)、「6. 自分の意見ややり方に固執せず、相手の意見や立場を尊重して柔軟に対応」17名(27.0%)、「14. 語学の勉強へのモチベーションを高めること」17名(27.0%)、「17. 政治・社会問題・国際関係について、知識・関心を高めること」17名(27.0%)の4項目が挙げられた。さらに、「自分から率先して取り組むこと」といった「主体性」「相手の意見や立場を尊重して柔軟に対応する」といった「協調性」、「英語に限らない語学へのモチベーション」「社会問題等への関心を高めること」などの「知識・教養」といった、参加者自身の志向性や今後の態度に影響を与えることが期待される項目において、「向上した」といった主観的な回答が比較的多く得られたことがわかった。項目6に挙げられた事項は、アサーションスキルとも捉えられ、WC参加で得られる重要なスキルのひとつ⁷⁾でもあり、WC・VCに共通する参加効果の一つとして考えられる。

なお、全期間と一部期間の回答者数において、特に人数、割合共に差異が確認できる項目を比較したところ、「1. 自分からやるべき課題を見つけて率先して取り組むこと」、「3. 自分なりに現状分析して課題点を具体的に提示すること」、「6. 自分の意見ややり方に固執せず、相手の意見や立場を尊重して柔軟に対応すること」、「19. なし」の4項目におい

て、 $\alpha < .01$ で統計的な有意差が確認できた。これらのうち、「1. 自分からやるべき課題を見つけて率先して取り組むこと」、「3. 自分なりに現状分析して課題点を具体的に提示すること」は、いずれも「主体性」に関わる項目であるため、全期間参加した者は、一部期間のみの参加者と比較すると、特に効果を得ていることが確認された。「19. なし」は、全期間には0名、一方、一部期間には4名(13.8%)であったので、全期間が、より主体的に参加に臨み、かつ成果を得ている姿勢が推察できる結果であった。

また、VC参加で得られる成果について、参加者を対象として、得られた成果の自己評価・達成度を測るため、「海外からの参加者との交流」、「海外からの参加者と議論を交わす」、「異文化について知る、理解を深める」、「社会問題について知る、理解を深める」、「新しいことについて知る、理解を深める」の5項目と、「英語力向上 (Listening, Speaking, Reading, Writingの各技能)」の4項目の計9項目を設定した。回答は、1: 0~10%、2: 20%、3: 30%~10: 100%の10段階とした。目標として設定していない項目である場合は0として設定した。各設問に対する回答者の参加状況の回答数、回答率、平均値、偏差値、中央値、最頻値を表7のとおり算出した。

特に、参加者全体の評価10における、参加者中の全期間と一部期間の回答人数の差異について検証した。

参加者中における全期間回答者は、「海外からの参加者との交流」で19名中14名(73.6%)、「海外からの参加者と議論を交わす」で16名中12名(75.0%)、「異文化について知る、理解を深める」で20名中14名(70%)、「社会問題について知る、理解を深める」で21名中15名(71.4%)、「新しいことについて知る、理解を深める」で23名中17名(73.9%)と、一部参加に対し、割合が大きかった。特に、「海外からの参加者との交流」、「異文化について知る、理解を深める」、「新しいことについて知る、理解を深める」の3項目については、 $\alpha < .05$ で有意に、「海外からの参加者との議論を交わす」、「社会問題について知る、理解を深める」の2項目においては、 $.05 < \alpha < .10$ で、差異がある傾向が、統計

表7 参加後の自己評価・達成度について

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	小計	0	合計	平均	偏差	中央値	最頻値
海外からの参加者との交流*	参加	1	0	3	3	3	11	8	8	7	19	63	0	63	7.6	2.3	8.0	10.0
		1.6%	0.0%	4.8%	4.8%	4.8%	17.5%	12.7%	12.7%	11.1%	30.2%	100.0%	0.0%	100.0%				
	全期間	0	0	1	0	1	3	4	7	4	14	34	0	34	8.4	1.8	9.0	10.0
		0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	2.9%	8.8%	11.8%	20.6%	11.8%	41.2%	100.0%	0.0%	100.0%				
	一部期間	1	0	2	3	2	8	4	1	3	5	29	0	29	6.6	2.4	6.0	6.0
		3.4%	0.0%	6.9%	10.3%	6.9%	27.6%	13.8%	3.4%	10.3%	17.2%	100.0%	0.0%	100.0%				
海外からの参加者と議論を交わす†	参加	1	4	2	3	3	8	10	9	7	16	63	0	63	7.2	2.5	8.0	10.0
		1.6%	6.3%	3.2%	4.8%	4.8%	12.7%	15.9%	14.3%	11.1%	25.4%	100.0%	0.0%	100.0%				
	全期間	0	2	1	0	0	4	4	5	6	12	34	0	34	8.0	2.3	9.0	10.0
		0.0%	5.9%	2.9%	0.0%	0.0%	11.8%	11.8%	14.7%	17.6%	35.3%	100.0%	0.0%	100.0%				
	一部期間	1	2	1	3	3	4	6	4	1	4	29	0	29	6.3	2.5	7.0	7.0
		3.4%	6.9%	3.4%	10.3%	10.3%	13.8%	20.7%	13.8%	3.4%	13.8%	100.0%	0.0%	100.0%				
異文化について知る、理解を深める*	参加	1	0	0	5	4	5	11	10	6	20	62	1	63	7.7	2.3	8.0	10.0
		1.6%	0.0%	0.0%	7.9%	6.3%	7.9%	17.5%	15.9%	9.5%	31.7%	98.4%	1.6%	100.0%				
	全期間	0	0	0	1	0	3	8	3	4	14	33	1	34	8.2	2.2	9.0	10.0
		0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	8.8%	23.5%	8.8%	11.8%	41.2%	97.1%	2.9%	100.0%				
	一部期間	1	0	0	4	4	2	3	7	2	6	29	0	29	7.0	2.4	8.0	8.0
		3.4%	0.0%	0.0%	13.8%	13.8%	6.9%	10.3%	24.1%	6.9%	20.7%	100.0%	0.0%	100.0%				
社会問題について知る、理解を深める†	参加	0	0	2	2	3	2	9	13	7	21	59	4	63	7.6	2.7	8.0	10.0
		0.0%	0.0%	3.2%	3.2%	4.8%	3.2%	14.3%	20.6%	11.1%	33.3%	93.7%	6.3%	100.0%				
	全期間	0	0	0	0	1	2	5	7	2	15	32	2	34	8.1	2.5	8.5	10.0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	5.9%	14.7%	20.6%	5.9%	44.1%	94.1%	5.9%	100.0%				
	一部期間	0	0	2	2	2	0	4	6	5	6	27	2	29	7.1	2.9	8.0	10.0
		0.0%	0.0%	6.9%	6.9%	6.9%	0.0%	13.8%	20.7%	17.2%	20.7%	93.1%	6.9%	100.0%				
新しいことについて知る、理解を深める**	参加	0	1	2	2	4	1	10	12	7	23	62	1	63	8.0	2.3	8.0	10.0
		0.0%	1.6%	3.2%	3.2%	6.3%	1.6%	15.9%	19.0%	11.1%	36.5%	98.4%	1.6%	100.0%				
	全期間	0	0	1	1	0	0	5	6	3	17	33	1	34	8.4	2.3	9.5	10.0
		0.0%	0.0%	2.9%	2.9%	0.0%	0.0%	14.7%	17.6%	8.8%	50.0%	97.1%	2.9%	100.0%				
	一部期間	0	1	1	1	4	1	5	6	4	6	29	0	29	7.4	2.2	8.0	10.0
		0.0%	3.4%	3.4%	3.4%	13.8%	3.4%	17.2%	20.7%	13.8%	20.7%	100.0%	0.0%	100.0%				
英語力向上 (Listening)	参加	0	0	1	4	6	11	11	10	6	11	60	3	63	6.9	2.4	7.0	8.0
		0.0%	0.0%	1.6%	6.3%	9.5%	17.5%	17.5%	15.9%	9.5%	17.5%	95.2%	4.8%	100.0%				
	全期間	0	0	1	2	2	4	7	8	3	6	33	1	34	7.2	2.3	7.5	8.0
		0.0%	0.0%	2.9%	5.9%	5.9%	11.8%	20.6%	23.5%	8.8%	17.6%	97.1%	2.9%	100.0%				
	一部期間	0	0	0	2	4	7	4	2	3	5	27	2	29	6.6	2.6	6.0	6.0
		0.0%	0.0%	0.0%	6.9%	13.8%	24.1%	13.8%	6.9%	10.3%	17.2%	93.1%	6.9%	100.0%				
英語力向上 (Speaking)	参加	0	1	3	4	7	12	5	15	6	8	61	2	63	6.7	2.4	7.0	8.0
		0.0%	1.6%	4.8%	6.3%	11.1%	19.0%	7.9%	23.8%	9.5%	12.7%	96.8%	3.2%	100.0%				
	全期間	0	1	1	1	2	4	4	12	2	6	33	1	34	7.2	2.4	8.0	8.0
		0.0%	2.9%	2.9%	2.9%	5.9%	11.8%	11.8%	35.3%	5.9%	17.6%	97.1%	2.9%	100.0%				
	一部期間	0	0	2	3	5	8	1	3	4	2	28	1	29	6.1	2.3	6.0	6.0
		0.0%	0.0%	6.9%	10.3%	17.2%	27.6%	3.4%	10.3%	13.8%	6.9%	96.6%	3.4%	100.0%				
英語力向上 (Reading)	参加	0	0	3	4	7	9	11	8	4	55	8	63	6.0	2.9	7.0	8.0	
		0.0%	0.0%	4.8%	6.3%	11.1%	14.3%	14.3%	17.5%	12.7%	6.3%	87.3%	12.7%					100.0%
	全期間	0	0	0	1	4	5	4	6	6	3	29	5	34	6.3	3.1	7.0	8.0
		0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	11.8%	14.7%	11.8%	17.6%	17.6%	8.8%	85.3%	14.7%	100.0%				
	一部期間	0	0	3	3	3	4	5	5	2	1	26	3	29	5.6	2.7	6.0	7.0
		0.0%	0.0%	10.3%	10.3%	10.3%	13.8%	17.2%	17.2%	6.9%	3.4%	89.7%	10.3%	100.0%				

表7 続き

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	小計	0	合計	平均	偏差	中央値	最頻値
英語力向上 (Writing)	参加	2	3	5	2	14	5	9	5	4	7	56	7	63	5.4	3.0	5.0	5.0
		3.2%	4.8%	7.9%	3.2%	22.2%	7.9%	14.3%	7.9%	6.3%	11.1%	88.9%	11.1%	100.0%				
	全期間	1	0	1	2	6	3	5	2	4	6	30	4	34	6.1	3.2	6.5	5.0
		2.9%	0.0%	2.9%	5.9%	17.6%	8.8%	14.7%	5.9%	11.8%	17.6%	88.2%	11.8%	100.0%				
	一部期間	1	3	4	0	8	2	4	3	0	1	26	3	29	4.6	2.7	5.0	5.0
		3.4%	10.3%	13.8%	0.0%	27.6%	6.9%	13.8%	10.3%	0.0%	3.4%	89.7%	10.3%	100.0%				

※40%以上：濃グレー、30%以上：グレー、20%以上：薄グレー

※評価10における全期間と一部期間比較 ** $\alpha < .01$, * $\alpha < .05$, †.05 $< \alpha < .10$ カイ二乗検定、両側検定。

的に確認でき、全期間と一部期間との主観的な達成度の違いが明確となった。

さらに、相対的に10段階中の8~10を高評価、1~4を低評価とし、かつ、高評価50.0%以上かつ低評価10%未満の範囲で着目すると、「異文化について知る、理解を深める」(57.1%/9.5%)、「社会問題について知る、理解を深める」(50.8%/6.4%)の2項目が挙げられた。当該項目を目標とはしていない参加者が0名であった、「海外からの参加者と議論や交流」という、相手と会ってこそ得られる「交流」は、VC参加によって得られる成果として期待されていた。しかし、特に、結果的に高い達成度を得たのは、「異文化、社会問題について知る」という、自分自身の意識の変化であったことがわかった。また、10段階評価で偏差2.0以下である項目がひとつも無かったことから、自己評価にばらつきが大きかったことも伺える。これらから、「活動」することと、「交流」すること、とは、異なるテーマであることが推察される。

英語力については、交流事業であるため、コミュニケーションに実用的なListening、Speakingへの期待が大きく、いくらかの評価は確認できた。しかし、期間の短さや、現場の空気に触れているわけではないことが影響しているためか、VC参加による成果としての達成度としては、明確には表出されなかった。

2.2.6 その他の特筆事項

英語力とプログラム評価・満足度間における関係性は、相関係数-0.16であった。また評価・満足度における、全体評価、料金、内容、団体等の各項目間の相関を算出したところ、強め、といえるのは、「総合的な評価・満足度」と「実施内容」間の

相関係数0.73が最高値で、「家族や友人に紹介したいか」が、0.66で続いたのみであった。その他は0.6未満であった。“無料”であった「参加料金」と他項目との相関は0.18~0.37に留まり、影響は小さかった。また、英語力と参加動機間の相関係数は、-0.1~0.27と値は小さかった。

参加動機と満足度の関係性は、満足度を5段階評価中の5及び4を対象とし、両者の相関係数を算出した結果、±0~4の範囲で、負の相関が目立つ結果であった。比較的高い数値であり、かつ正の領域では、「社会問題について知る、理解を深める」に対する、「海外の友人を作りたかったから」が相関係数0.207、「英語力を向上させたいと思ったから」が0.204であったのみであった。一方で負の領域では、「留学・研修中に急遽帰国となったから」と「実施内容への満足度」が-0.31、「予定していた留学/研修が中止になったから」と「参加料金への満足度(無料)」が-0.32と、「急遽帰国」者や「留学/研修中止」者が、プログラムの仕様について、満足できなかった様子が見える。これらから、あくまでも傾向だが、「海外の友人をつくりたい」、「英語力を向上させたい」とスタート地点から、「社会問題」についての見識を深めるきっかけとなっている一方で、自身の希望や求めるもの、スキルや知識と、プログラムの内容や準備についての情報不足とのマッチングがうまくいっていない姿も推察でき、今後の最大の改善課題である。

また、参加者における参加動機「英語学習モチベーション」への回答は、参加者中の50.8%であった。しかし、表6の通り、今後の活動に「英語学習」を挙げた参加者は42.9%へ、さらに、表5の通り、参加して向上したこと、において「英語の勉強へのモチベーション」を上げた参加者は39.7%と、

さらに減少していた。事前に参加動機として挙げられていた「海外に行きたい」、「渡航できない」、「英語力」だが、VC参加を経て、「日本国内でのボランティア活動」や、「国内外インターンシップ」、「異文化、社会問題、新しいこと」、「専門科目以外の学業」などへの意欲が高まっている傾向から、「英語」というよりは「新たな価値観」や「活動すること」への興味関心が高まっていることが推察される。

3 全体的考察

これまでの結果より、VCは、オンライン施策ならではの、機材や時差という課題を克服する必要がある。しかし、海外からの参加者と共通した目的をもって集い、不自由ながらも英語を介したコミュニケーションを図り、活動に参画することで、「自分から率先して取り組むこと」などの「主体性」、「相手の意見や立場を尊重して柔軟に対応する」などの「協調性」、「英語に限らない語学へのモチベーション」、「社会問題等への関心を高めること」などの「知識・教養」といった、参加者自身の志向性や今後の態度に影響を与えることに対して成果があることが分かった。この成果をより詳細に検証すると、元々は「海外に行きたい」、「参加費用無料」、「英語力向上」という参加動機が強いながらも、一部期間、不参加者に比べて、満足度、実施内容、推奨度もいずれも高いのは、「全期間」参加者であることも確認できた。「全期間」がどのような参加者であるかという点、「予定していた留学が中止」や「急遽帰国」であった、留学レベルに達している者ではなく、これから海外留学・海外研修に臨もうとしている、留学準備層であった。逆に留学レベル層は、推奨度において低評価であり、むしろ、参加動機と満足度の関係性や、実施内容と無料であった料金において、弱いながらも負の相関を示していた。つまり、VCは留学レベルにある者にとっては、期待に応えるには物足りず、一方で、その前段階である、留学準備層にとってこそ、より有用であったことがわかった。満足度においては、一部期間に対して「全期間」は、「新しいこと」、「海外からの参加者との交流」、「異文化理解」といった点で有意差を、「海外からの参加者と議論」、「社会問題」において差異のある傾向が確認できた。「自分からやるべき課題

を見つけて、率先して取り組むこと」、「現状を分析して、問題点を提示すること」、「自分のやり方に固執せず、相手の意見や立場を尊重すること」といったスキルも有意に向上していた。

VC参加がより有効であるのは、「全期間」参加であり、参加者がより成果を得るためには、自身の参加動機とプログラムの内容を事前に吟味し、主体的な参加態度であることが重要である。ミスマッチを防ぎ、途中離脱をすることなく、「全期間」参加へつなげることが、志望者へのアドバイスとして必要である。

ただし全体を鑑みると、今回は「渡航不可」という緊急事態に、様々なニーズ、留学準備レベルにある若者が、それぞれの立場でVCに参加した。その多くは「海外の参加者と交流したい」や、「英語力向上」といった広い願望より始まっていたが、VC参加にて、海外参加者と接し、世界が共有する「環境問題」や「社会問題」に、当事者問題として触れることになった。これに対し、海外渡航が自由に叶わない現況下で、“今、自分ができること”を、模索し、その眼差しの先を、さらに日本国内開催プログラムに求め始めた若者の姿が、挑戦を停滞させない若者たちのひとつの姿を浮かびあがってきたのではなかろうか。

VCは、オンラインプログラムであり、時間や距離の制約を受けない、ということが、最大の利点である。先述の通り、プログラムの目的と、自身のスキルや求めるものを事前に吟味し、「全期間」参加となるべく、ミスマッチを防ぐことで、次のアクションに有機的に繋がる、有用性の高いプログラムになることと考える。

今回は、プログラム開催期間や内容やの違いによる影響にまでは言及しきれしていない。海外渡航再開後のWCとの併用や、有料での参加価値も視野に、然るべきニーズに的確なプログラムの提供ができるよう、より詳細な分析を、今後の課題としたい。

注

- [1] 各テストスコアとCEFRとの比較は、英検（実用英語技能検定）およびIELTSは公益財団法人日本英語検定協会、TOEIC®テストは、一般社団法人国際ビジネスコミュニケーション協会、TOEFL®テストは

一般社団法人CIEE国際教育交換協議会による各テストとCEFRとの換算資料を統合して行った。

究」成果報告書. https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/_icsFiles/afieldfile/2018/11/22/1411310_1.pdf (2020年12月7日参照)

引用・参考文献

- 1) 文部科学省. (2020). 留学を予定・考えていた日本人学生の皆さんへ. https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1405561_00004.htm, (2020年12月7日参照)
- 2) 外務省. (2020). 各国に対する感染症危険情報の発出, <https://www.anzen.mofa.go.jp/covid19/info1030.html> (2020年12月7日参照)
- 3) 古川雅子. (2020). オンライン授業の歴史と現状 新たな学びのかたちを拓く. NII Today第88号, <https://www.nii.ac.jp/today/88/6.html> (2020年12月13日参照)
- 4) Robert, O.(2019). A transnational model of virtual exchange for global citizenship education, *Language Teaching*, 53(4), 477-490.
- 5) 文部科学省. (2018). 平成30年度大学の世界展開力強化事業 https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/sekaitenkai/1405090.htm (2020年12月7日参照)
- 6) 山田恒夫. (2017). 情報化社会における国際ボランティア活動, *ボランティア学研究*, 17, 5-12.
- 7) 小菅洋史. (2020). 短期海外ボランティアによる主観的成長と「社会人基礎力」～ワークキャンプ型とホームステイ型の違いに着目して～. *グローバル人材育成教育研究*, 8(1), 1-11. https://www.jstage.jst.go.jp/article/jagce/8/1/8_1/_article/-char/ja
- 8) CIEE Japan. (2020). バーチャルキャンプ～オンライン参加型の国際ボランティアワークショップ～. <https://www.cieej.or.jp/exchange/virtualcamp.html#p6> (2020年12月13日参照)
- 9) Slack help center Slack って何? <https://slack.com/intl/ja-jp/help/articles/115004071768-Slack-%E3%81%A3%E3%81%A6%E4%BD%95%EF%BC%9F> (2021年2月9日参照)
- 10) padlet What is Padlet? <https://padlet.helpdocs.io/en/about-padlet/what-is-padlet> (2021年2月9日参照)
- 11) 学校法人河合塾. (2018). 平成29年度文部科学省委託事業「日本人の海外留学の効果測定に関する調査研

付録

[1] 調査紙項目

- 1: 基本情報
 - 1-1: フェース項目
 - ・年齢 (記述)
 - ・性別 (選択)
 - ・メールアドレス (記述)
 - ・参加/申込プログラム (選択)
 - 1-2: VC参加状況
 - 1-2.1: VCにどの程度参加しましたか。(選択)
 - ・全日程参加した
 - ・一部だけ参加した
 - ・参加決定(Accept)となったが参加しなかった(キャンセルした)
 - ・参加決定(Accept)とならず、参加できなかった
 - 1-2.2: 「全日程参加した」と回答した方に伺います。
 - ・参加時間は1回一日何時間、計何回何時間でしたか。また、そのうち発話量及び聞く量は、おおよそ、合計でどれくらい(何分くらい)でしたか? (記述)
 - 1-2.3: 「一部だけ参加した」「参加決定(Accept)となったが参加しなかった(キャンセルした)」「申込途中で断念した」と回答した方は理由を教えてください。(記述)
- 2: プログラム評価

各項目について、1: 不満～2: やや不満～3: どちらともいえない～4: やや満足～5: 満足の5段階で教えてください。

 - 2-1: VCプログラムに対する総合的な評価・満足度はどれくらいですか?
 - 2-2: 参加料金について (今回は無料)
 - 2-3: 現地実施団体について
 - 2-4: 日本の実施団体(CIEE Japan)について
 - 2-5: 実施内容について
 - 2-6: このプログラムを家族や友人に紹介したいと思いますか?

3: VC参加後の自己評価・達成度(1: 0%~10: 100%)について、教えてください。

3-1: 参加を希望された目的は達成されましたか? (自分の目的と一致しない場合は、0をご利用ください。目的と一致する場合は、達成度を1: 0~10%、2: 20%、3: 30%~10: 100%として選択してください。)

- ・海外からの参加者との交流 (異文化理解)
- ・海外からの参加者と議論を交わす (異文化理解)
- ・異文化について知る、理解を深める (異文化理解)
- ・社会問題について知る、理解を深める (知識)
- ・新しいことについて知る、理解を深める (知識)
- ・英語力向上(Listening) (英語力向上)
- ・英語力向上(Speaking) (英語力向上)
- ・英語力向上(Reading) (英語力向上)
- ・英語力向上(Writing) (英語力向上)
- ・その他

3-2: 参加して、特に向上したと思うことを選んでください。(複数選択可)

- ・自分からやるべき課題を見つけて率先して取り組むこと (主体性)
- ・自ら目標を設定し、失敗を恐れず粘り強く行動すること (主体性)
- ・自分なりに現状分析して課題点を具体的に提示すること (主体性)
- ・課題に向けた解決プロセスを考え、計画的に実行すること (主体性)
- ・相手の話しやすい環境を作り、適切な意見を引き出すこと (協調性)
- ・自分の意見ややり方に固執せず、相手の意見や立場を尊重して柔軟に対応すること (協調性)
- ・メンバー間において、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解すること (協調性)
- ・その場のルールや手続きに従って、自ら行動や発言を適切にすること (協調性)
- ・自分の文化背景の異なる場所また仲間とでも、リーダーシップを取ることを (異文化理解)
- ・リスクがあっても、挑戦してみることが大切だと考え、実行すること (異文化理解)
- ・不十分な外国語力であっても、何とか意味を伝えようと積極的に発信すること (異文化理解)

・自分とは異なる信仰や文化的背景を持っている人を理解し、受入れること (異文化理解)

・国内・海外を含めて、外国人との交流を図ること (異文化理解)

・語学の勉強へのモチベーションを高めること (知識・教養)

・英語の勉強へのモチベーションを高めること (知識・教養)

・プロジェクト先の社会・習慣・文化に関する知識を高めること (知識・教養)

・政治・社会問題・国際関係について、知識・関心を高めること (知識・教養)

・社会での男女共同参画 (男女平等) の重要性を認識すること (知識・教養)

・なし

・その他

3-3: 今後の活動について

今回の参加を通して、改めて今後は具体的にどのような活動を行う予定ですか? (複数選択可)

・海外留学 (家族友人レジャー)

・海外研修 (修学旅行含)

・海外ボランティア

・日本国内ボランティア

・海外インターンシップ

・日本国内インターンシップ

・専攻科目に関する学業

・専攻科目に限らない学業

・英語学習

・アルバイト

・VC

・なし

・その他

4: 事前情報

4-1: VC申込/参加前に海外体験はありましたか? (複数選択可)

・海外旅行 (家族友人レジャー)

・海外研修 (修学旅行含)

・なし

・その他

4-2: VCに申込/参加しようと思った理由は何ですか。あてはまるものすべて選択してください。

- ・予定したい留学・研修が中止となったから
- ・留学・研修中に急遽帰国となったから
- ・海外に行きたいのに、渡航ができない事態であったから
- ・将来的な海外留学・研修の準備に役立つと思ったから
- ・就職活動に役立つと思ったから
- ・元々国際ワークキャンプに興味があったから
- ・元々、オンラインでのワークショップに参加したいと考えていたから
- ・家族・友人や教員から勧められたから
- ・参加費用が無料だったから
- ・単位認定や評価の対象であったから
- ・英語力を向上させたいと思ったから

- ・日本のことを伝えたいと思ったから
- ・海外の友人を作りたいかったから
- ・海外の人に対して、自分の意見を伝えられるようになりたいと思ったから
- ・今の自分の力を試してみたいと思ったから
- ・参加しなければ、罰則があったから
- ・その他

4-3: 英語力 (例: TOEFL iBT60 など。ない場合はなし)

5: その他・自由記述

受付日2020年12月16日、受理日2021年5月15日